

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年9月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101326
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム すずらんハイツ
所在地	鹿児島市城西3丁目2-24 (電話) 253-8181
自己評価作成日	令和元年8月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http. //www. wam. go. ip/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和元年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

城西に移転して2年半がたちました。住宅街にあり、永吉、原良方面の方が入居されたり、問い合わせが多くなりました。施設も段差を無くしワンフロアで作られていますのでご利用者の様子が日中、夜間共に音や声で分かるようになり、対応が早くできるためか市役所に届けるような事故はおきておりません。たまたま最近は事故が無いだけかもしれませんが、この状態に慣れることなく、これからも注意をして見守り、ご利用者の支援に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな住宅地に位置し、近隣にはスーパー等の商店街、学校、保育施設、公園などがあり、交通も便利な環境にある。母体の医療機関をはじめグループ施設とは相互に交流・連携が図られている。特に母体の医療機関とは密接につながり充実した支援体制が築かれ、利用者や家族からの信頼は厚い。

日常的に散歩や近隣のスーパーへ出かける際に地域の方々との挨拶や会話があり、保育施設の子どもたちとの関わりも利用者の楽しみになっている。自治会に加入し、民生委員からは運営推進会議で多くの助言や意見をもらっている。また、ボランティアや介護・看護の実習生も受入れ、利用者はこれらのふれあいを楽しんでいる。

管理者や職員とのチームワークは良好で、日々のケアや連絡ノート、毎月のミーティングで情報共有し、利用者・家族の希望や思いを大切に話し合い、その時々合った柔軟な対応を目指して工夫を重ねている。また、管理者は職員の技能や知識の習得、資格取得支援にも積極的で、職員の資質向上や利用者ケアへの反映を図っている。

災害対策においては、消防署や設備会社の協力のもとに実施している定期訓練以外に、職員による自主防災訓練も年1回行っている。防災グッズと共に、大きめの色合い鮮やかなバスタオルを利用した職員手作りの防災頭巾も備え、強い防災意識で利用者の安全確保に取り組んでいる。防災グッズの見直しや自治会長を含めた地域住民の訓練参加も計画している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人全体の理念ではありますが、施設のリビングに掲示して常にその理念に添った介護ができていますか、職員各自で意識して支援しております。	理念に沿って、利用者と常に笑顔で接し、地域と関わり合いながら我が家で生活するような暮らしの実現を目指して支援に取り組んでいる。理念は掲示並びに名札の裏にも記載して周知を図り、日々のケアを通じて振り返り、個々に合ったケアの実現を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	近隣にお住まいの方々とは挨拶や会話にも努め、近くのスーパーや商店を利用している。サマーボランティアの受け入れも行い近所の保育施設の子供達も散歩時に立ち寄ってくれます。	町内会に加入し、案内される清掃活動等への参加のほか、近隣の商店街での買い物や散歩でも地域の方々と会話や挨拶を交わしている。近隣の保育施設の園児とのふれあいや法人のグループ施設との交流、ホームではサマーボランティアや看護学生の実習を受入れ、これらの機会を利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	城西地区交流会に参加している。認知症の相談や施設見学等も丁寧に対応しており、施設入所もグループホームだけでなく関連施設や近隣の施設の情報など説明できるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しております。行事報告とその都度、議題を決めて意見交換を行いながら施設でのサービスの質の向上につながるよう努めております。	会議は出席者の意見も参考にしながら毎回テーマも設定して、家族や民生委員、長寿あんしんセンターの職員、職員等関係者が参加して定期的で開催されている。利用者及びホームの現況や行事・問題点等の報告のほか、テーマについても活発な意見交換が行われている。内容は職員で共有して、具体的に日々のサービス向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	申請や手続き、相談など定期的に市の担当者と面談しております。長寿あんしん相談センターやグループホーム協議会などとも交流しながら情報交換を行い協力関係を築いています。	毎年介護相談員の受入れを行い、市担当窓口や長寿あんしんセンターとは訪問や電話で、利用者の暮らしぶりやニーズを報告し、各種の手続き等では確認・相談を行い連携を図っている。また、地域での城西交流会やグループホーム協議会、各種の研修会にも積極的に参加して意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束廃止委員会と研修を開催しており、身体拘束を行わないケアを実践しております。職員全員が身体拘束の対象になる行為を正しく理解してケアを行なえるように努めております。	言葉による拘束をはじめとした身体拘束の防止については、日々のケアやミーティングで繰り返し話し合っ確認している。また、マニュアルの整備や法人・ホームでの研修を通じて、具体的な事例も参考にしながら理解を深め、ケアへの十分な反映に努めている。職員は連携して見守り、常に笑顔で声かけに努め、安全を確保しながら自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行っており、職員全員が虐待防止について理解している。施設内で虐待が行われることが無いように常に気をつけております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の権利擁護や成年後見人制度など研修を行い職員間で情報を共有しており、相談があれば支援や相談にのるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書を書類と口頭で説明を行い理解して頂けるように努めています。又最終時や変更時その都度、個々に説明を行いながら質問や疑問には丁寧に答えるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やご家族がご意見を言いやすいように声かけを行い、出た意見や要望に関しては職員間で情報を共有を図っています。又、年2回家族交流会を行い他のご家族との意見交換などが出来るように支援しています。	利用者の思いは日常会話やしぐさの見守りから、家族とは電話や来所時の会話、また、年2回の家族交流会の際に、話しやすい雰囲気づくりに努めて多くの意見をもらっている。内容は連絡ノートやミーティングで共有し、サービスに具体的に反映できるように努めている。家族にも来所時の対話のほか、電話やホーム便りで必要な連絡を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に2回、スタッフミーティングを行い施設長や管理者、職員間での意見交換を行っている。管理者は職員からいつでも意見が聞ける環境にあり、施設を良好に運営できるように努めている。	管理者は、日々のケア時の対話や連絡ノート活用のほか、定例のミーティングでも職員の意見や提案を聞き取り、業務改善やサービス向上への反映を図っている。また、日頃から声かけも行きコミュニケーションを取りやすい環境づくりに努め、職員の資格取得への支援など資質の向上にも積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長はミーティングなどや行事等の際に資格取得や外部での研修などに参加することを勧めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得を職員に進めており、外部の研修の情報も流し、外部研修希望時は勤務調整など行えるように努めている。又、法人でも毎月研修を行い、時には外部の方に講義をお願いしている。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域交流会、グループホーム協議会に参加して情報の交換を行っている。又、関連施設でも月に1回定例会を行い意見交換を行いサービスの向上に活かせるように努めている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設内で生活する不安や要望などご利用者様、ご家族から聞くように努め、希望や要望に添えるように努めている。入所されてからも会話などから不安感などを聞き取り信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内での生活のリズムを丁寧に説明して不安や希望があればしっかりと聞き、希望や要望に添った介護ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人、担当のケアマネから情報を聞き、グループホームでの生活が最適化を良く話し合いながら、ご本人やご家族との信頼関係を築いていけるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と一緒に生活しているとの思いで、お手伝いをお願いしたり、ご自分で出来る所は見守りと励ましてお互いが支え合っている関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と一緒に支えて行く立場でご家族と協力しながらご利用者様を支援して行くことが大切であることをご家族にもご理解頂き一緒に支援できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚などがいつでも自由に来られることを説明しており、外出や外泊、外食なども自由に行けるように支援している。面会時はゆっくり居室で過ごせるように配慮している。	入所時の聞き取りや家族の来所時に利用前の情報を把握し、本人が希望する近隣のドライブや商店街での買い物、散歩等に同行している。また、電話や手紙の取り次ぎ、趣味の支援をはじめ、家族の来所時には、リビングや居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。家族との外出や外食、墓参りや一時帰宅なども積極的に勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごして頂きながらご利用者様同士で会話やコミュニケーションが取れる雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族の相談やご本人の様子など支援が必要なことなどがあれば情報を伝えるなど地域密着型の施設として相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様に暮らし方の希望があれば、ご家族とも話し合いご利用者様の希望や思いに添った暮らしが出来るように支援している。	利用開始時の本人や家族からの聞き取りや、家族の来所時の対話、また日々接する中で思いや希望をくみ取るように努めている。ミーティングや連絡ノートで情報を共有し、家族とも相談しながら、利用者のその時々のお思いに答えられるよう柔軟に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや相談員、ご家族からもその方の生活歴を聞いて、今までの生活歴が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の状況を把握してご本人が自分で出来る事と支援が必要なる事を見極めてその方らしい生活が維持できるように支援していく。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作る時にご利用者様とご家族、主治医、職員の意見を聴きながら計画を立てている。モニタリングも3～6か月に1回は行いご利用者様とご家族の意見や思いが反映されているか見直しを行っている。	変化する利用者の状態・思いや意見等は、主に連絡ノートで職員が共有し、本人や時に家族・主治医も参加した担当者会議で話し合い、主治医の意見や職員の気づき・アイデアも反映させたわかりやすい介護計画を作成している。ケアの経過は支援経過記録や介護記録・業務日誌・アセスメント要約表等に記録し、モニタリングを実施して計画の見直し修正を適切に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース記録があり、業務日誌にも記録されており、職員全員が情報を共有している。ミーティングやモニタリング時に意見交換を行い介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や理美容、リハビリ、病院受診などご利用者様の状況や希望に添って対応が出来るように支援している。ご利用者様やご家族の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この近辺にお住まいだった方が入居されることが多くなりましたので地域の方々と協力しあえる関係を築けるように努めています。ボランティアや介護実習も積極的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、かかりつけ医が継続できるように支援している。主治医とは情報の共有を行いご利用者様が適切な医療がうけられるように努めています。	利用前の受診の経過把握に基づき、本人や家族の希望するかかりつけ医への通院や訪問診療を、時には家族にもお願いしながら適切に支援している。かかりつけ医及び家族との意見・情報交換は十分に行われ、母体医療機関と密接に連携を図り、緊急時にも速やかに医療が受けられるように体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が24時間のオンコールを持っており、緊急時や相談したいときは対応して頂いている。毎日、バイタルチェックを行ない異常があれば早めに報告を行い指示を受けるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のご利用者様の情報提供を行い主治医や看護師共情報交換を行っている。入院中は早めに退院できるようにと不安感軽減のために定期的に施設職員が顔を出して声かけを行い又、看護師や主治医からの情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期が近いと思われるご利用者様にはご家族に説明を行いご家族の希望に添うように支援している。又、事業所で出来る事を説明しながら主治医、関係機関と協力しながら納得できる介護や支援を行っている。	重度化や終末期のケアについては、入所時に文書を基に基本方針を説明している。また、様々な状況の変化に応じて医師や家族と十分に話し合い、可能な限りの支援・対応ができるように体制を整えている。実際に重度化の場合には、再度文書で説明して同意を得たうえで、より現実に沿った支援になるよう取り組んでいる。法人やホームでの研修も繰り返し、職員の知識や理解を深める取り組みも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のみにゆ或るを職員全員が十分に理解しており定期的な研修も行いながら急変時に対応できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練は年2回、昼間と夜間を想定して訓練を行っている。地震や風水害などの災害訓練も年1回行っており職員全員、マニュアルを熟知している。又、防災グッズや備蓄も完備している。</p>	<p>年2回消防署や設備会社の協力を得ながら、夜間想定も含む避難・消火・通報訓練を行い、災害を想定した自主訓練も行っている。防災設備の設置や定期点検、食料や水の備蓄も十分な状況である。自治会長を含めた地域住民の訓練への参加呼びかけ、防災グッズの内容見直しも計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず笑顔でご利用者様の目線で話しかけるようにしており、人生の先輩として尊重するように仕事の行き帰りには必ず、顔を見ながら挨拶するように努めている。	居室の保護や日々のケアに際して、利用者の誇りやプライバシーに十分に配慮して、笑顔で、そして丁寧な声かけや対応になるように、全職員が繰り返し確認している。マニュアルは整備され、接遇や個人情報保護などの研修も行われ、各種の個人記録も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者様が希望や思いを伝えられる雰囲気作りを職員全員で行っておりご利用者様が自分で選択できる場面を作る支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせて対応できるように支援している。外出や買い物、趣味などご利用者様の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問理美容の方に来て頂きご利用者様の希望に添って行っている。又、季節に合った服でその方らしさが出るように気をつけて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いのご入居時や食事の食べ残しなどで切り方や献立をその方のみ変更するなどいつも食事チェックを行ない気をつけている。又、食事の時は職員も一緒に同じテーブルで食べている。	利用者の好みも日々の暮らしで把握し、できることは手伝ってもらいながら、旬の食材を用いて献立や味付けに反映させ、ミキサー食やきざみ食等の工夫も行っている。おはぎやおせち料理等の季節の行事食、誕生会・敬老会・クリスマス会等の特別食、手作りのおやつ、家族との外食など、利用者の楽しみにつながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様に合わせて、キザミやミキサーお粥など個別に対応している。食事や水分摂取量は毎回記録してご利用者様の状況を把握できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけを行い歯磨きをしていただき、ご利用者様によっては職員が介助して歯磨きしたり、磨き残しを介助している。又、月に1回訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ利用は現在のところは1名で他のご利用者様はトイレで排泄が出来るように支援している。排泄チェックを行ない、排泄パターンを把握している。	水分摂取や排泄チェック表を活用して、個人の習慣や身体機能に応じた排泄支援となるように工夫を重ねている。支援に際しては、利用者の不安や羞恥心の軽減も兼ねた丁寧な声かけや対応に努め、併せて適切な援助方法や排泄用品の選択なども検討しながら、なるべく排泄の自立に向けた支援となるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握して水分や運動、食事内容の工夫、下剤など便秘にならないようにご利用者様に応じた対応を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に日曜日以外は入浴が出来る体制にて浴室には機械浴も設置して歩けない方も浴槽に入れるように支援しています。脱衣所から浴室も段差なくいできます。	家族からの情報も含めて本人の好みや習慣の把握に努め、機械浴の活用や入浴剤の工夫なども含めて入浴を適切に支援している。バイタルチェックや皮膚等の観察は丁寧に行い、ゆっくりと対話しながら楽しんでもらっている。入浴をためらう場合には、言葉かけの工夫などに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温や明るさなどはご利用者様に希望に配慮しながら安心して入眠できるように支援しております。日中もご利用者様の体調に合わせて居室で休息できる体制です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方時や薬局からの目的などが書かれた用紙をファイルして職員全員で情報を共有している。服薬や時の支援や症状の変化時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に生活する中でご利用者様の興味のあるものを見極め新聞を読んだり、外出の支援、塗り絵など個々に出来る事や興味にあることを行い気分転換をしていただけるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近所のスーパーへの買い物や散歩ご家族との外出、外食、病院受診などご家族と協力しながら支援しています。関連施設への行事参加なども行い外出の機会を作っています。	利用者の健康状態や天候を見ながら、希望に沿って散歩や近隣のドライブ、スーパーでの買い物に出かけている。その際の、近隣の方々や保育施設の子どもたちとふれあいは、利用者の楽しみになっている。また、利用者の能力に沿って、法人の車や車いす等を適切に活用して関連施設の行事にも出かけ、外出が楽しみになるよう支援している。一時的な帰宅や外食、墓参りなどは家族にお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の中にはお金を所持されている方もいらっしゃいます。お金を所持できない方はお小遣いとしてお預かりして買い物時に必要な物を買えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話がご家族からかかってきてご利用者様と会話されることもあり又、携帯電話をお持ちの方もおられます。お手紙が来たらご利用者様のお渡ししています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは対面式のキッチンもあり生活環がある空間になっている。室温や音などにも配慮している。毎日、清掃を行い清潔な空間になるように支援しています。	リビングは明るく、仏壇や神棚が設置され、季節の花飾りや職員と利用者による手作りの大きなちぎり絵、刺繍飾りなどが楽しめる。対面式のキッチンやリビングとつながった事務所などは、利用者との対話や見守りもしやすいレイアウトになっている。居室も含めて静かな環境であり、空調にも十分配慮がなされ清潔に保たれている。ボランティアや実習生との交流もリビングで行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルは各自の席が決まっておりご利用者様同士で会話が楽しめる空間になっております。又、リビングにはソファもありご利用者様が自由に利用できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド、タンス、洗面所は備え付けがありますが、居室内の飾りつけはご利用者様とご家族に行っていただいております。花や写真などを飾られたりされております。</p>	<p>居室は全室フローリングでエアコンや電動ベッド・洗面台・タンスが設置されている。自宅から持参した家具や写真、時計、小物が思い思いに配置されて、自分の部屋として落ち着いてその人らしく暮らせるようになっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は段差なく居室やトイレ、リビングに自由に移動できるようになっており又、手すりも壁には設置してご利用者様が安全に移動され環境作りを行っております。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
		○	1 ほぼ全ての利用者が

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない